



～筑波学院大生の  
実践活動報告～

経営情報学科3年

鈴木 祐滋

私は「NPO法人動物愛護を考  
える茨城県民ネットワーク」で、  
この団体に保護された犬たちのお  
世話を体験しました。

今回の活動で感じたことは、い  
のちを相手にした仕事は非常に大  
変なことであり、またやりがいを  
強く感じられるということです。  
特に掃除に関しては大変でした。  
動物が病気になる周辺に悪影響  
が及ぶため、しっかりと隅々まで掃  
除を行う必要があります。大変な  
作業でしたが、作業が完了した時  
にはとても達成感を感じることが  
できました。また、犬たちに飲ま  
せなければならぬ薬を個別に分  
量を量ってエサに混ぜ込む作業  
も、医療現場のようで印象的でした。



「動物愛護を考える茨城県民  
ネットワーク」で活動した

た。

犬の健康に気を配りながらそれ  
ぞれの性格や制限などを考慮する  
ことの難しさや大変さも、身にし  
みて感じました。毎日早朝6時か  
らスタートする犬の散歩では、動  
物たちの健康状態、散歩中のトイ  
レの様子などを観察します。スタ  
ッフの方たちはちよつとした犬の  
異変を見落とさなかったり、イレ  
ギュラーな事態が起きた際にすみ  
やかに対応したりしており、そこ  
から皆さんの動物好きな気持ちと  
責任感が伝わってきました。

## いのちの体験

活動の最終日は、なんだか犬た  
ちも寂しげに見えました。この活  
動で常に考えていたことは、この  
保護された動物たちが人間  
間だったら、ということ  
です。相手は同じ命です。  
それを一方的な都合で捨  
ててしまう、そんな人間  
は身勝手だということを  
強く感じました。そうい  
う現状のなかでこの仕事  
に携わることができたの  
は、貴重な体験だと思  
います。

保護する犬がいなくな  
ることが理想かもしれま  
せんがそれは不可能なの  
で、そのような犬を減ら  
すことが重要だと感じました。そ  
して実際に犬の世話をした私自身  
が、一人でも多くのひとにこの現  
実を発信していかなくてはと思  
います。そのような意識を持つこと  
ができるようになったという点  
で、本当のためになる経験をしま  
した。このような経験をさせて  
いただいた団体の方々には感謝して  
おります。

\*学生が昨年11月から12月につ  
けて、「NPO法人動物愛護を考  
える茨城県民ネットワーク」（つく  
ば市）で活動を行いました。